第８回市立中学校のあり方検討委員会　R5.5.31学校視察　意見・感想まとめ

視察校	No	意見・感想
湯沢学園	1	１町１校で、保小中の一貫教育を推進できることで、見通しを持った教育課程の編成や、思い切った施設設備の予算付けができたと思う。ただ、数か所に分散する統合問題をかかえる状況で、潤沢な予算の裏付けがない場合は、公平性を保つのは難しいのではないかと感じた。
	2	23km45分のバス通学は大変だし、冬期の休日部活動に参加できないというのは何らかの格差を生まないか。
	3	中学統合から50年以上経過という要素もあるのかも知れないが、オール湯沢で子育てする、同時に子どもたちもオール湯沢の地域活動に参加参画していることに自信を感じた。また町外の学校への通学者に給食費全額補助、交通費もほぼ補助ということも素晴らしい（交通費について退出時に玄関にて教育長から伺った。）
	4	デメリットとして「高１ギャップ？が大きい」、５年生～中学生における「学びの基礎力」に課題があることなどを率直に聞けたことも良かった。
	5	学年１～２クラスでは学びの連続性、教員育成などの面では難しいのかも。教員が赴任したい、保護者が子どもを学ばせるために生活拠点を移したいと感じる学校群ができないものか。また十日町市における給食費補助に関して知らないが、通学費に関しては市外の学校に通学する場合に補助はなく、津南町からは１万円超過分の補助があるということを先月偶然知ったばかりの私にとって湯沢町と十日町市の差はなんだろうと感じた。
八海中学校	6	小中一貫の考え方のメリットが多く感じられたが、八海中は小学校との連携はこれからのように受けた。
	7	八海中の設立に対する地域の統合の話し合いは見習うべきであると思った。
	8	「事前に何日もかけて部会で検討したが、統合時に徹底できなかった」とか「何をどこまで決めるのか、決めていいのか、３校の動きがバラバラで困惑した」というのが、現実であるのだろうし、大変なんだろうなと感じた。
	9	学校規模別意識調査の一覧表において望ましい学級規模として「１学年３学級30人」というのもあるが、学力向上、教員養成、地域資源の活用、地域への貢献などを考えるときに、ある程度理想的な学校規模（教職員規模）というものが検討できるのではないかと感じた。
	10	2065年まで学区別生徒数推測データがある！　なぜ十日町市にはないのか。30～40年後にも対応できる「あり方」を検討してほしいと十日町市教育長が提起しておられたように記憶しているが。
	11	理科教諭に帰り際に「実は２つある理科室を３つにしてほしいと要望したんです」と伺った。12年ほど前に静岡県の中学理科教諭から「理科室は学年別にほしいぐらいなんです」と聞いたことを思い出す。特別教室や教科教室は空き時間活用が課題となるのかも知れないが、教材研究や課外活動など有効な利用方法があるのだと思う。
まつのやま学園	12	雪里留学で児童生徒数を確保することと、特別な支援や配慮を要する児童生徒が増えることと、メリットデメリットが複雑に絡んでいくことになるのではと感じた。
	13	時間の関係で無理かもしれないが、「学園」としての実際の児童生徒の交流の場を見たいなと思った。
	14	まつのやま学園の現在の取組は家庭的で温かみのある小中一貫教育と思うが、数年で児童数の減少が顕著になった場合には現在の取組ができなくなると思う。雪里留学だけでは無理で、何らかの対策が必要と思う。
	15	市内に１つか２つくらい存在できたらと思うがアクセスの悪くない場所に。また近所の子は選択できることも必要だと思う。
	16	小規模校の特例措置について検索していたら、八王子市の小学校においては①小規模校（全学年１クラス）への学区外からの通学希望、②小規模校学区からの学区外通学ルールの表がヒットした（共働き対応も含めて学校選択が現在も可能なようだ）

各校共通・その他	17	３校を視察し、それぞれの設立について教育に対する思いを持って話し合いに臨んだことを聞かせてもらった。有意義な時間であったことを感謝したい。
	18	中１ギャップの解消は魅力がある小中一貫教育は必要に思う。中学校再編のみではなく、小中の連携の仕組みも必要なことである。できるだけメリットを多くするためにも小中一貫教育は必要ではと感じた。
	19	湯沢学園・八海中学校の児童生徒数の推移は十日町市の児童生徒数の減少に比べて減少幅が少ない。十日町市は令和４年度の子どもの出生数をもとに中学校のあり方を考えなければならないと思う。
	20	中学校の統合が実現するとしても、それが実現するまでの間は全国の小規模の中学校の素晴らしい実践を参考に成果を上げられるように努めてほしい。
	21	人数が少なくなったからといって近くの学校を統合するというだけではやはり良くないなと考えた。目に見える形で人口減少が出始めているので。
	22	次男は学年20人の中学校に通い、友達関係も勉強面も丁寧に見てもらっていてありがたい。長男は津南中等に通い、大人数だからできる学びの経験をしている。学習面は少人数で総合的な学習は興味のあるテーマ・分野ごとに集まったり、何校かが集まり大人数で学べる環境が作れたらいいなと感じた。
	23	小中学校に通っているとき、先生方に丁寧に関わってもらってきた子（家庭環境の問題など）が高校に進学していない就職もしていない子のフォローも大切になるなと思う。
	24	３校とも事前質問への回答準備を含めて対応していただき大変感謝している。また湯沢町、南魚沼市において教育長など教育委員会からの説明もあり大変有意義な時間だった。他市町での滞在はもう少し時間がほしいところだった。
	25	湯沢町、南魚沼市においては相当な危機感をもち、行政と地域がの教育のために知恵を出し総合力を発揮しようとしている印象を受けた。翻って十日町市ではどうだろうか。学力推移において中１ギャップ（さらに津南中等進学者による影響もあるだろう）と説明されたグラフを提示されていたが郵送された学年別推移をみると小３過ぎから低下していく。この要因分析と対策検討がされているのだろうか。
	26	「新しい学力観」にもとづく学力向上のため、「令和の日本型学校教育」の姿と教職員集団を十日町市・魚沼地域で実現するために必要な手立てはなんだろうか。私たち市民と行政が、来年～30年後40年後という長い期間について、即効性にも期待して提言できたら素敵だと思う。小学校と中学校を中心に据えながら、概ね３歳～20歳における教育サポートをどのように造りあげていくのか。その中で「学校群」として学校間の機能の違い、連携、地域との関係をどのように考えていけばよいのか考えることが大切なのではないかと感じた。
	27	委員や事務局メンバーで懇親会などしたい。
	28	まつのやま学園では中１ギャップがないという説明があった。中学校を統合する場合、今まで以上に中１ギャップが大きくなることが予想されるため、そのギャップについて多角的に可能な限り低減するための方策が必要と考える。
	29	「高校進学のための中学校ではない」という話題が出た。どんな学校にすべきかは、大人が議論するだけではなく、中学生自身が「どうありたいのか」「どのような中学校生活を送りたいのか」も把握したうえで、議論を進めることが望ましいと考える。
	30	十日町市で進めるコミュニティスクールを統合後、いろいろな地域から集まる生徒がいる中でどう進めていくのか。「地域とともにある学校づくり」あるいは「学校を核とした地域づくり」を、どう進めるのか熟議が必要だと思った。
	31	中学校を統合するとき、校名についてはフラットな状態で決定するようお願いしたい。
	32	統合してよかったと思われるような仕掛けを考えていくことが大切だと思った。